

JSHCT Letter

No.13

The Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation

日本造血細胞移植学会

March 2003

発刊発行：日本造血細胞移植学会 〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65番地 名古屋大学医学部第一内科内 TEL (052) 744-2146 FAX (052) 744-2161
発行者：河 敬世 編集責任：日本造血細胞移植学会編集委員会 印刷：株式会社セントラルコンベンションサービス 年4回発行：2003年3月

移植施設紹介 東海大学医学部付属病院細胞移植医療センター・無菌病棟

東海大学医学部付属病院は昭和49年に神奈川県伊勢原市に開院しました。伊勢原というと三重県の伊勢志摩を連想する方も少なくないと思いますが、神奈川県伊勢原は小田急線で新宿から約1時間ほど箱根方面に向かったところに位置し、霊峰大山を擁する丹沢連邦を背景に地上10階、地下1階の巨大な病院が建っています。行基菩薩が薬師如来の導きを受けて西暦716年に開設した日向薬師は病院から車で約15分に位置し、現代の医療の進歩を間近で見守っておられます。

無菌病棟は独立した看護単位として開院当初より完全無菌室5床(クラス100)で開設され、1995年には準無菌室(クラス100・10,000)6床の増床、さらに2001年に4床室(クラス10,000)を増設して12室の15床で現在に至っております。看護スタッフは師長1名、主任1名、看護師19名、看護助手2名の合計23名です。看護師の勤務態勢は2交代制で、日勤には6ないし7名で勤務しており、平均稼働率が10床であることから患者様1.5人に対して看護師1名の割合であるため、患者様の要望に対して早期に対応することが可能になっています。

無菌病棟のドアを入ると右に師長室がありますが、実は子どもたちのプレイルーム、ゲームラウンジを兼ねており、しばしばにぎやかな声が聞かれます。細長いナースステーションにはリハビリ用のエアロバイクがおいでありますが、残念なことに利用頻度は決して高くないようです。6床の準無菌室はなるべくドアを開放し、閉塞感の予防に努めています。完全無菌室は壁全体から無菌層流が流れるシステムのために、患者様は病室内で自由に移動することができます。完全無菌室と準無菌室の使い分けとしては、主に臍帯血移植、非血縁者間骨髄移植および乳幼児の移植を完全無菌室で行い、自家あるいは同種末梢血幹細胞移植、HLA一致同胞間移植の一部を準無菌室で行っています。4床室は小児のみで、移植後の造血能の安定期から退院までの時期を過ごしますが、院内学級へもこの病室から通学しています。

東海大学では1982年に学内の臨床および基礎医学の各分野からなる骨髄移植チームを発足し、医学部全体のプロジェクトとして自家および同種骨髄移植に取り組んできました。同種骨髄移植は1982年の3月に第1例を成功させ、以後2002年12月の時点で小児科が312例(345回)、血液リウマチ内科が176例(178回)、合計で488例(525回)の同種造血幹細胞移植を施行しています。この間、1993年9月には国内で初めてHLA2抗原不一致血縁者からの同種CD34陽性細胞移植を成功させ、1994年10月にはやはり国内で初めて血縁者間臍帯血移植を成功させています。小児科の移植の特徴は白血病などの血液悪性腫瘍の他に、先天性再生不良性貧血であるファンコニー貧血や、ハンター症候群、副腎白質ジストロフィーなどの先天性代謝異常の移植例が多いことで、それぞれの疾患に合わせた移植前処置を開発しています。特に再生不良性貧血の移植においては、成長発達過程にある小児の移植後のQOLを考慮して放射線照射量の減量や性腺の遮蔽などを取り入れており、妊娠出産に至った症例が増えています。血液リウマチ

内科では白血病、悪性リンパ腫をはじめとして多発性骨髄腫などの移植例も多く、適応に応じてミニ移植も行っています。

移植医療をトータルケアとして行うためには移植チームの綿密な情報交換と信頼関係の確立が必要であり、毎週火曜日には医師、看護師、理学療法士、移植コーディネーター、検査技師などによる骨髄移植カンファレンスを行っています。リエゾンカンファレンスは毎週金曜日に行なわれ、精神科医の参加を得て患者様の精神的苦痛の緩和のために努力しています。患者様が小児の場合にはご家族が帰宅した後の夜間の様子などを伝えるために「交換ノート」を行っています。ご家族にも非常に好評で個々の患者様の生活習慣に合わせたケアを行うために大きく役立っています。

小児科では県外からの紹介患者様が多く、小児例の約60%を占めています。この場合付き添いを余儀なくされ、ご家族は二重生活のために経済的、精神的な負担を強いられます。このようなご家族の支援を目的とした滞在施設が1996年からの「にじの家」に始まり、2000年からは「かもめの家」に引き継がれました。現在の「かもめの家」は9世帯が滞在可能で、家具、電化製品、寝具、冷暖房設備など生活に必要な設備、備品の全てが完備され、ボランティアによって献身的な運営が行われています。最近は滞在家族専用の自家用車も寄付され、買い物などに利用されています。毎週水曜日には交流会が開かれ、ボランティアの手作りの料理に舌鼓を打ちながら親睦を深めており、情報交換の場としても大きな役割を果たしています。



東海大学医学部附属病院(奥)と「かもめの家」(手前右)

東海大学で骨髄移植を開始して20年が経過しましたが、2005年には病院がリニューアルされ、新しい無菌病棟での造血細胞移植が始まります。より安心して安全な移植治療を提供できるように、あるいはさらに一歩進んで快適な治療になるようにスタッフ一同努力していきたいと思ひます。

(東海大学医学部付属病院無菌病棟 木曾由美子)



無菌病棟スタッフ

「造血細胞移植看護ネットワーク」について

東京大学医科学研究所附属病院
看護部 尾上裕子(ネットワーク代表)

1996年12月、岡山における日本造血細胞移植学会においてこの会の設立についての呼びかけを行いました。学会に参加するナースの数はこの当時よりすでに数百名に達しており看護の発表も7～80題に上っていたと思います。看護関係の学会では血液疾患の発表は非常に少なく、骨髄移植にいたってはほとんど取り上げられていないという状況でしたので私たち移植ナースは自ずと学会に目が向かざるを得なかったのかもしれません。

学会での呼びかけに先立ち、移植看護の専門性を謳い、将来的には認定看護師としての位置づけを獲得する目的もあり数施設の代表で準備を開始しました。しかし、数少ない骨髄移植看護の文献を参考にしながら細々と看護を行うのではなく、私たち自身が移植看護の発信源として活動していくことに大きな意義を見出しましたので全国規模のネットワーク立ち上げへと話が進みました。呼びかけに対しては多くの賛同が得られましたので、ネットワーク活動の目的、内容、組織図と会則等を作って準備を重ね、翌1997年の学会時に第1回目の総会を開く運びとなり現在に至っております。

毎年、学会長様のご好意により学会の中で総会を開かせていただき看護関係のセッションについては希望まで訊いていただくようになりました。コメディカルとして評議員に加わり、3年前からは理事会にも入らせていただきましたし、学会における看護部会のような位置づけとして認知されてきています。もちろん学会長をされる先生やその施設の先生達の間でだけなのですが・・・コレをお読みの学会員の皆様、以後よろしくお見知りおきくださいませ。

現在ネットワークの会員は約300名、会長以下5名の役員と数名の運営委員、それに小委員会の委員数名が中心となって活動しております。主な活動は年1回の総会、年2～3回の勉強会を東京、大阪(または名古屋)、地方(平成14年度は仙台)で開催、ネットワーク独自の調査研究、学会における看護関係セッションの企画と参加、学会発表された看護演題の収録集発行、年2回の通信の発行、プログラム委員としての学会準備などがあります。また、無菌管理の効率化や食事のガイドライン作成などにも加わらせていただきました。役員達は皆移植の現場を抱えての活動ですのでなかなか大変な思いをしていますが、移植看護の質のレベルアップを図るべく健闘しております。全国の移植ナースたちが手をつなぎ情報交換をしながら難病に苦しむ患者さんの力になりたいと願っております。

最近はこのネットワーク以外にも研究会や勉強会のグループが出来ているようですが、そういったグループともうまくリンクして活動していきたいと考えております。

平成15年度は小児分野に目を向けていくことと、学会の中に入ることを真剣に考える時期であることを認識しております。日本造血細胞移植学会看護部会などというものが出来るかもしれません。その時はどうぞよろしくお願い致します。

以上、看護ネットワークについて紹介させていただきました。まだネットワークに入っていない施設のナースの皆様、移植看護について熱い思いを語り合ってみませんか。それから、移植医の先生方、こんなに頑張っているナースたちにどうぞエールを贈ってください。移植医療はナースの力なくしては成功しないと私たちは自負しています。

平成16年度評議員応募申請について

平成16年度本学会評議員の応募申請要項をお知らせいたします。なお、選任委員会の協議を経て、平成15年度総会の理事会・評議員会で承認され総会で決定されますと、平成16年4月1日より本学会の評議員となります。

平成16年度日本造血細胞移植学会評議員応募申請要項

下記の事項を順にA4用紙に記載し、平成15年6月30日(月)までに日本造血細胞移植学会評議員選任委員会宛て書留にて郵送してください。なお、原本の他に、原本のコピー7部を必ず同封してください。要項に則しない申請書に関しては選考がおこなわれない可能性があります。

記

このたび平成16年度日本造血細胞移植学会評議員に応募します。

- 1 氏名(ふりがな)印
- 2 生年月日(平成16年4月1日現在の年齢)
- 3 所属施設 / 所属部署 / 職名 / 住所 / 電話番号・FAX番号 / e-mail
- 4 連絡先(3と異なる場合に記載)
- 5 学会(骨髄移植研究会を含む)入会年
5年以上正会員で会費完納が条件です。入会年、会費納入状況等のご不明の場合には事務局までお申し出ください。連絡先:(052)971-5550
- 6 学歴/職歴(造血細胞移植との関連が判るように)
- 7 資格(医師、看護婦(士)等)
- 8 所属学会/団体(役職)
- 9 専門分野(関連の深い分野から3分野以内を具体的に記載。医師の場合は必ず内科/小児科/輸血/その他臨床系(外科、泌尿器科など)/基礎系のどの分野で主に活動しているかが判るように記載してください。医師以外の場合は、基礎系研究者、看護、検査、ME、治験管理、など具体的に記載してください。30字以内)
- 10 医療業績(できる限り箇条書きにして400字以内で記載。造血細胞移植経験症例数を必ず記載してください。記載が無い場合は移植経験が無いものとみなします。)
- 11 研究業績(造血細胞移植に関連のある事項を400字以内で記載してください)
- 12 発表業績
別紙に記載し添付してください。
I 論文
【欧文業績と邦文業績を別々に、原著/総説/その他に分けて最近のものから順に番号(造血細胞移植に関連する業績には番号に)を付けて、著者名 題名 発表誌 年;号:最初の頁 - 最後の頁 IF(インパクトファクター);の形式(著者を全員記載し申請者に下線を引くこと、及び、IFを付ける以外はBONE MARROW TRANSPLANTATIONに準じる)で記載してください。IFは最新(2002年度改定版;2001 Science Edition Journal Rankings)のJournal Citation Reportsを用いてください。IFが無いものに関しては「なし」と記載してください。】

II 学会発表
【過去10年間の筆頭演者としての発表を最近のものから順に番号を付けて、演者(3名までに省略可)、演題名 学会名 発表年、地名(発表形式;シンポジウム、口演、ポスターなど)を記載してください。】
- 13 その他
(学会評議員に応募申請するにあたり特に主張されたいことがあれば200字以内で記載してください)

送付先:〒466-8550

名古屋市昭和区鶴舞町65

名古屋大学大学院医学系研究科分子細胞内科学(第一内科)内

日本造血細胞移植学会事務局

(日本造血細胞移植学会評議員選任委員会と付記する)

問い合わせ先:日本造血細胞学会事務局

e-mail: jshct@med.nagoya-u.ac.jp

Phone: (052)744-2146 Fax: (052)744-2161